「幸せな町をつくるために」

私の町は、近くに山や海があり、自然豊かですごしやすいです。小さな町ですが、ようち園から大学まであり、世界最多のペンギンの種類をほこるペンギン水族館や、日見宿という長崎街道最後の宿場があったりと、なかなかユニークな町です。私にとっては住みやすい町ですが、みんなに当てはまるかどうかは、ぎ問に思います。なぜなら、段差のある歩道や、せまい道路、信号機のない横断歩道など、いろいろと問題があるからです。

以前、信号機のない横断歩道に、つえを持ったおじいさんが立っていました。車は止らず、困っている様子でした。私はおじいさんのとなりで大きく手をあげ、いっしょにゆっくりと横断歩道をわたりました。おじいさんは、「本当に助かったよ、ありがとう」と言ってくれました。また、こんなこともありました。私は手伝いで、ゴミをゴミステーションに持って行っていました。その時、ゴミ

20 × 20

箱のフタにネットが引っかかり、開けられない様子のおじいさんを見ました。私は急いでフタを開け、おじいさんのゴミを入れました。おじいさんに、大変感しゃされました。年を取ると、今までできていたことが、できなくなります。だれもが当然のようにできると思っていても、同じようにできるわけではないのです。私はその時、改めて実感しました。私の住む町は、すてきな町です。けれども、一人一人が思いやりを持った行動をすると、もっとすばらしい町になります。全ての横断歩道に、信号機を付けることはできません。全てのゴミ箱を、開けやすいボックスに交かんすることはできません。しかし、できる人が手を差しのべることで、もっと住みやすい町になると思います。私はこれからも、困っている人がいたら、手を差しのべたいです。そして、みんなが幸せになれる町をつくっていきたいと思います。

20 × 20